



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 47 《小出博己 院長》 ◆看護師さんのページ NO. 27 《笹尾孝美さん》
- ◆研修医のページ NO. 30 《都野公一 先生》 ◆雲南の地域医療を考えるシンポジウム
- ◆中山間地域での看護教育 ◆島根県地域医療支援会議



NO. 47

隠岐広域連立隠岐病院

院長 小出 博己



（隠岐の島町）にあり、隠岐圏域における地域医療の中核的役割を果たしています。昭和51年開院の旧病院は、老朽化と狭隘化が問題となり、医療機能の充実も困難となっております。

このような中、隠岐病院整備方針検討会議の答申を受け、現地建て替えが決定され、平成24年5月1日に新病院が開院しました。療養環境の充実を図るとともに、診断機能を向上させ、医療完結率を高めるため、医療機器の更新・整備も行いました。また、医療情報の効率的運用のため、電子カルテも導入しました。一方、当院で対応できない高度の医療を要する救急患者の搬送の効率化、搬送時間の短縮のため、屋上にヘリポートを設置しました。なお、病床数は隠岐地域の人口が減少していること

を考慮して134床から115床に縮小しました。標榜診療科は変わりなく計14科、常勤医師数は歯科医師1名を含め16名です。町内の診療所の数が少なく、一日外来患者数は40名余と病床数に比較して多く、救急車搬入件数は年500件程度、また、本土の高度機能病院へのヘリ等による緊急搬送は年40件余あります。

隠岐は離島であり、本土との往来に制限があるため、圏域内での一定程度の完結性のある医療が求められます。それに応えるためにも、医師をはじめ薬剤師、看護師などの医療専門職員の確保が必須であります。中でも医師の確保に関して、この数年間にいくつかの問題が発生しました。平成18年に産婦人科常勤医師の派遣が一時中止となったため、隠岐での分娩ができなくなりました。こうした事態を受け、院内助産の開設準備を行い、また、隠岐での勤務経験のある内科医師が産婦人科研修を終えて赴任され、平成19年4月より山陰で初めての院内助産システムによる分娩を始めました。さらには、平成20年10月からは泌尿器科常勤医師の派遣が中止となり、透析についてはベテランの常勤医師3名が研修等を受けて、当時は40名おられ

た血液透析患者に対応してきております。そのほか、精神科につきましても近年医師確保が厳しい中、県、県立病院、大学も含めた県内精神科医師の御支援、御協力により、外来、入院診療が継続できております。このように、医師不足に起因する諸々の問題について可能な限り院内の協力体制で対応しておりますが、大学や島根県の御理解と御支援による医師派遣等に頼らざるを得ないことも多くあります。

この様な状況の中、これからの地域医療を守るためには、将来地域で働く医療人を育てる必要があります。そのための地域医療実践の場として、一人でも多く、研修医、医学部学生、看護学生の実習を受け入れ、また中高生の病院見学等を今後も積極的に進めて行きたいと思っております。



5月に開院した新病院

済生会江津総合病院

看護部長 笹尾 孝美

済生会江津総合病院（以下当院）は平成18年に現在の海側（江津シビックゾーン）に新築移転しました。済生会グループである高砂病院（療養病床・老健）、白寿園（特老）と共に江津の医療と福祉を担っています。しかし、島根県西部にある病院が抱えている医療従事者の不足は病棟休止に代表されるように、医療福祉の提供に大きく影響を与えています。当院も同様の状態に至りましたが、今年4月より、高砂病院の病院機能を当院に集約し、当院は以前の状態に戻りつつあります。療養病棟が移転した高砂病院は、この10月より高砂ケアセンタートとして新しく船出をしました。済生会グループといたしましては、



今まで以上に医療福祉の提供体制を充実させ、江津地域の皆様の安全・安心を確保したいと考えています。

当院は「看護師の手のぬくもりが伝わる看護」をめざし毎日看護業務に励んでいます。日々の看護に責任をもち、患者さんが求める看護に寄り添い看護師自身も「やりがい」「充実感」を味わっています。今年度も新卒看護師4名・助産師1名が加わってくれました。新人看護師離職率0%を更新し続けているのが自慢です。一人一人の看護師の成長に合わせきめ細かく指導しています。看護師は平均40歳とベテランぞろいですが、「夜勤が辛い」と感じる年齢でもあります。働き続けられる環境をと昨年度から看護協会が行っている「ワークライフバランス・ワークショップ」に参加しています。看護職員全員に調査し、その調査結果を元に推進チームで活動計画の作成・実施・評価をおこないました。今年度の調査結果は昨年度より幾分かはよくなった項目・悪くなった項目と変化がありました。が、経年の取り組みが今後功を奏すと考えています。

認定看護師も昨年度2名、今年度3名誕生しました。今後、認定看護師が活動しやすい環境を作り、看護の質を保証しながら、患者さん・地域の皆

様に還元していきたいと考えています。また、認定看護師の配置により診療報酬上算定できるものがあり、看護の力をPRしていきたいと考えています。

地域を支える力を今後もつげながら、住民の方々の医療・福祉を守っていきたくらいと職員一丸で頑張っています。活気ある現場を是非見学にいらしてください。心よりお待ちしております。



益田赤十字病院

1年目研修医 都野 公一



私は、40歳の時、東京の帝京大学医学部に入學してこの春より初期研修を益田

ん、第1位指名させていただき現在があります。そして現在まで院長先生の話に偽りはなかったと感じています。週1回の抄読会や面談など院長先生自ら、我々研修医を指導していただいております。

益田赤十字病院では自分を含めて現在3名の初期研修医が日々研修に励んでいます。研修を始めて5か月が過ぎましたが、あつという間に過ぎていく毎日です。

益田赤十字病院の研修方式では、各科の専門医に熱心な指導を受けながら診療にあたり、研修を通して実践的臨床能力を付ける事ができます。

毎朝8時20分から医局でミーティングがあります。当直医師の報告や各科へのコンサルテーションの場でもあります。各科の壁をなくした、実に有意義なミーティングです。

その後、我々研修医はローテーション先で研修を受けます。現在、私は内科系の各科で研修中です。病棟業務における疑問点等をそれぞれの科の指導医の先生にご指導を承っていますし、検査・治療手技についても丁寧に指導していただいております。

毎週月曜日には内科カンファレンスがあります。内科と名前がついていますが、我々研修医はもちろん、内科以

外の診療科の先生方も時間が空いている限り参加され、有意義な症例検討を行っています。

また、学会やBSL、^{ACLS}、日本赤十字社の各種講習会にも積極的に参加させていただき、有意義な研修生活を行っています。

アフターファイブでは、食べ物のおいしい益田市で、指導医の先生との楽しい飲み会もたまにあります。文化、芸術の町、益田市は休日の骨休めには最高の環境であると思います。特にこれから秋にある石見神楽を觀賞することを楽しみにしています。

私は将来、地域医療に貢献したいと考えています。そのような観点からここ益田赤十字病院での研修は非常にためになっています。

最後になりますが、研修病院を探しておられる方は、是非、益田赤十字病院へ見学に来てください。そして、一緒に研修に励みましょう。

雲南の地域医療を考えるシンポジウム

7月29日(日)、雲南市の三刀屋文化体育館アスパルにおいて、「雲南地域医療を考える会」の主催により、「看護師にとって魅力ある病院は地

域の宝」をテーマにシンポジウムが開催されました。

まず、島根県立大学の吉川看護学部長から、「看護の力で地域を支える」と題して基調講演がありました。

医療の高度化・患者の入退院の高速化などに伴う看護職員不足の状況や、いわゆる2025年問題などに伴う訪問看護需要の高まりについて説明がありました。また、看護の力で地域を支えるためには、行政、議会、住民が、現在の地域医療や看護師の置かれた状況をきちんと認識することが大切であると話されました。

次に、雲南圏域4病院と松江の看護専門学校から5名のパネリストを迎え、パネルディスカッションが行われました。

雲南市立病院の看護部次長さんからは、島根大学医学部附属病院や奥出雲病院と連携した、病院独自の新人研修プログラムの作成について発



表がありました。

町立奥出雲病院の男性看護師さんからは、病院には奨学金貸与制度があり、それが看護師を目指すに際し後押しになったことについて、平成記念病院の女性中堅看護師さんからは、仕事と家庭・子育てを両立する上で、職場や地域、家族の支えが大きいことについて、飯南病院にインターンされた男性看護師さんからは、インターンの動機や飯南町からの熱心な勧誘などについて発表がありました。また、現役の男性看護学生さんからは、看護師を目指したきっかけや、患者さんに寄り添うことの大切さなどについて発表がありました。

会場からも多くの発言がありました。特に、現役の高校生から、「将来は看護師を目指そうと思っています。」「看護学校を卒業したら雲南市に帰ってきて働きたい。」と決意表明があり、会場に感動の輪が広がりました。



また、会場には、雲南圏域4病院のほか、島根大学など看護職員養成学校のブースが展示され、中・高校生や保護者が、熱心に担当者の説明

を聞いていました。

最後に、60代男性のアンケートを紹介して、まとめとさせていただきます。「このような定期的な取組みにより、地域の理解を得、協力を求めることができる。今後とも、この地域が、安定して、安心して暮らせる医療環境にあることを望む。」

【医療政策課 西】

中山間地域での看護教育

島根県立大学出雲キャンパスは、中山間地域での看護教育に取り組んでいます。同大学短期大学部3年生の乙部真実さん、鷹見正貴さんは、8月下旬、邑智郡川本町の加藤病院で看護研修を行いました。この取組みの狙いなどについて、山下一也副学長、松本玄智江淮教授、研修に参加されたお二人にお話を聞きました。

【県立大学が学生に期待すること】
(山下副学長) 中山間地域や離島での

研修を通して、地域の特性と課題について探求する力を養ってほしい。中山間地域では、看護師不足も課題となっている。地域について理解し、県内で働く看護師を増やすことが県立大学としての地域貢献であると考えている。今後も中山間地域や離島との交流を増

やしていきたい。

【今回の研修目的について】（松本准教授）「他職種を理解し、看護師の役割や専門性を再考すること。スタッフ間の連携の重要性を認識し、いかに連携すべきかを考えること。また多様な看護環境の中では、その環境に応じた看護技術があることを学ぶこと。」と、研修目的について説明いただきました。

【研修に参加して】

（乙部さん）「スタッフと患者さんとの信頼の厚さが強く印象に残りました。訪問診療にも同行させていただき、山間部に住む高齢者の生活に触れることができました。生活環境を踏まえた看護の大切さを実感しました。」



乙部さんと鷹見さん

（鷹見さん）

「山間部の様子が分かり、病院から出向いていく大切さを感じました。また、スタッフが院長も交えて、お互い意見を出し合い、話し合われる様子を拝見し、このようなスタッフの姿勢とスタッフ同士のアットホームな関係は、地域の人たちに病院を

身近な存在に感じさせるものだと思います。」

島根県の看護師不足は特に県西部や中山間地で深刻な状況です。今回のような研修を通じて、県内各地の地域特性とそれを踏まえた医療や看護を学び、それぞれが目指す看護を見つけ、近い将来、看護の第一線で活躍していただきたいと思います。

【医療政策課 森脇】

島根県地域医療支援会議

9月7日（金）、ホテル宍道湖において、「平成24年度第1回 島根県地域医療支援会議」が開催されました。今回は、任期満了に伴う委員の改選を行い、新たに「雲南市立病院」「大田市立病院」「隠岐病院」の3病院と「来待診療所」に加わっていただき、委員28名の組織となりました。また、会長は互選により、引き続き島根県参与の中川委員が選出されました。

まず、議題の地域医療支援計画の改定については、今年度で現計画の期間が終了するため、新たに策定することとなる新計画の素案について、事務局から概要の説明を行いました。新計画では、現計画の医療従事者の確保と地域医療支援全般の具体的な方策の記載

項目に加えて、国の指針に基づき、県や医療機関等の「各主体の役割」や、「若手医師のキャリアパス構築」等について記載しています。

委員からは用語の定義がわかりにくい点の指摘や、再生基金終了後の事業継続についての意見・質問等があり、それに対し事務局からは、今後、指摘された箇所を追加・修正し、次回の会議までに引き続き意見をいただきながら原案を作成していくこととしました。



続いて、「しまね地域医療支援センター」の取組み状況等を報告しました。今後の運営体制については、「オールしまね」で支援を行うために、各関係機関が主体的に参画できるように、各関係機関の構築を検討していることを説明しました。

このほかに、運航開始から1年を経過したドクターヘリの運航状況と県境を越えた連携の検討状況について、IT専門部会については開催状況と各医療機関を結ぶITシステム構築の進行状況についての報告を行いました。

【医療政策課 横地】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

